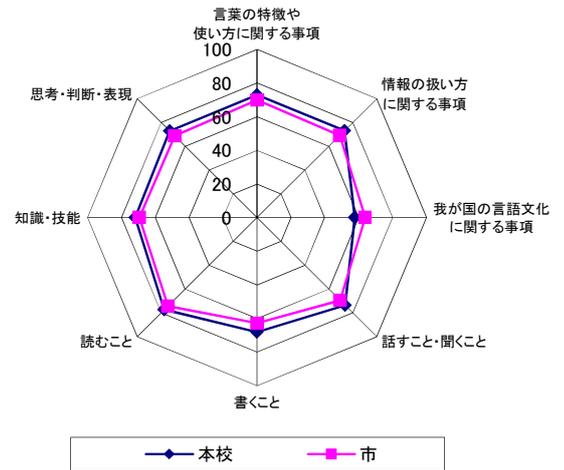


宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 73.0 | 69.9 | 72.3 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 73.1 | 69.2 | 73.0 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 57.7 | 63.8 | 66.0 |
| | 話すこと・聞くこと | 73.6 | 69.5 | 71.5 |
| | 書くこと | 68.1 | 62.8 | 67.1 |
| | 読むこと | 77.4 | 74.4 | 73.7 |
| 観点別 | 知識・技能 | 71.9 | 69.4 | 71.9 |
| | 思考・判断・表現 | 72.9 | 68.8 | 70.6 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

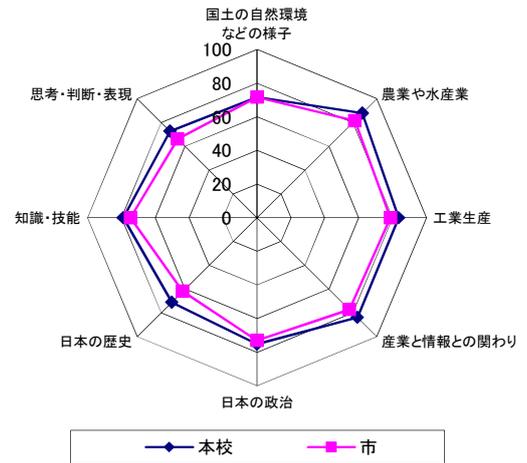
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-----------------|---|--|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> ○この領域の平均正答率は、市の平均を3.1ポイント上回っている。 ○漢字の読み書きについて、第6学年に担当されている漢字の正答率は86%～96%であった。 ●一方、第5学年に担当されている漢字の正答率は39%～61%であり、全国や市の平均よりもやや低かった。 | <ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習や授業でのミニテスト等を継続して行う。また、前学年に扱った漢字や語句についても、繰り返し指導を行うことで、知識の定着を図る。 ・国語での学びにこだわらず、各教科の学習に出てくる語句なども授業内で取り上げ、熟語について意識を持てるようにする。 |
| 情報の扱い方に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> ○この領域の平均正答率は、市の平均を3.9ポイント上回っている。 ●記述式の問題では正答率が56.9%であり、文章を簡単にまとめることに課題がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、授業のまとめや振り返りの指導を丁寧に行う。情報を整理しながら、自分の考えを簡潔にまとめる活動を繰り返すことで、さらに書く力を伸ばしていく。 |
| 我が国の言語文化に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> ●この領域の平均正答率は、市の平均を6.1ポイント下回っている。 ●和語・漢語・外来語のに関する問題の正答率は57.7%であった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・語句の由来に関する単元では、より丁寧な指導を行っていく。和語・漢語・外来語にまつわるワークシートやICTを活用することで、知識の定着を図る。 |
| 話すこと・聞くこと | <ul style="list-style-type: none"> ○出題されたすべての問題において、全国や市の正答率を上回っている。 ○話の内容を捉えたり、意図に応じて質問を工夫したりすることができている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに行ってきた指導を継続していく。 ・国語や学級活動を中心に話し合い活動を行い、学んだことを生かしていけるようにしていく。 |
| 書くこと | <ul style="list-style-type: none"> ○この領域の平均正答率は、市の平均を5.3ポイント上回っている。 ○自分の意見とその理由を明確にして書くことができている。正答率は91.5%であり、全国や市の平均を大きく上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに行ってきた指導を継続していく。 ・教科を問わず、自分の考えを書く場面を確保し、書き方の指導を行う。その際には、構成を考えながら書いたり、条件を踏まえて工夫して書いたりするなど、丁寧に指導していく。 |
| 読むこと | <ul style="list-style-type: none"> ○この領域の平均正答率は、市の平均を3.0ポイント上回っている。 ○物語の読み取りに関する問題では、7割～9割の正答率であり、描写をもとに内容や心情を捉えることができていた。 ●説明文の読み取りに関する問題では、正答率が6割であり、構成を捉えたり、情報と情報の関係を理解したりすることに課題がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・説明文の学習では、指示語の内容、中心分や中心語句などを的確に捉える学習を積み重ねていき、情報と情報の関係を読み取る学習につなげていく。 |

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|--------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 国土の自然環境などの様子 | 71.7 | 71.6 | 67.5 |
| | 農業や水産業 | 87.9 | 81.5 | 82.1 |
| | 工業生産 | 83.6 | 78.7 | 70.8 |
| | 産業と情報との関わり | 83.8 | 77.2 | 68.2 |
| | 日本の政治 | 75.2 | 73.1 | 77.9 |
| | 日本の歴史 | 71.2 | 62.0 | 65.8 |
| 観点別 | 知識・技能 | 78.9 | 74.6 | 74.5 |
| | 思考・判断・表現 | 72.7 | 66.2 | 65.2 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

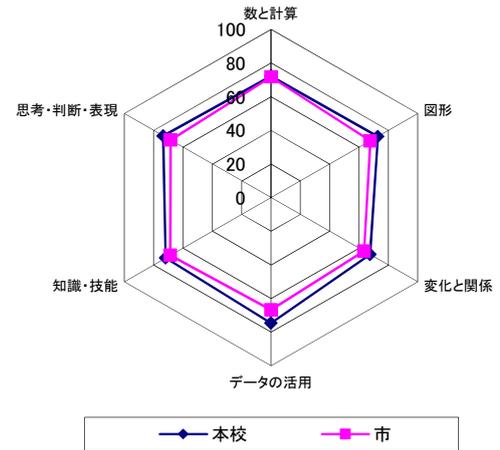
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------------|---|--|
| 国土の自然環境などの様子 | ○この領域の正答率は、市の平均を0.1ポイント上回っている。 ○日本の周辺の海洋名についての理解度は、市の平均を2.8ポイント上回っており、88.5%であった。 ●日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取る設問の正答率は、市の平均を10.9ポイント下回り、26.2%であった。 | ・国名や海洋などの名称や位置関係、国内の気候の特徴など、地理的な基礎知識が定着できるように、今後も、地図帳や地球儀、端末を生かして調べる活動を取り入れていく。 |
| 農業や水産業 | ○この領域の正答率は、市の平均を6.4ポイント上回っている。 ○地産地消の取り組みについての理解度は、市の平均を9.8ポイント上回り、92.3%と高い正答率であった。 | ・学んだことを自分の言葉でまとめたり、全体で共有したりすることで、さらに日本の農業や水産業の仕組みについて理解が深まるように指導していく。 |
| 工業生産 | ○この領域の正答率は、市の平均を4.9ポイント上回っている。 ○日本の輸出量の資料を読み取る設問の正答率が市の平均を上回り、83.8%であった。 | ・日本と海外の輸出や輸入の関係など、教科書や資料集のグラフの読み取りに関する活動を、今後も丁寧におこなっていく。 |
| 産業と情報との関わり | ○この領域の正答率は、市の平均を6.6ポイント上回っている。 ○資料に着目して、コンビニエンスストアの発注システムについて捉え、判断する設問では、正答率が74.6%と、市の平均62.8%を13.8ポイントと大きく上回った結果となった。 | ・日常生活と情報との関係性を、今後も教科書や資料集、1人1台端末などを活用しながら、適切にとらえさせる指導を進めていく。 |
| 日本の政治 | ○この領域の正答率は、市の平均を2.1ポイント上回っている。 ●図に着目して、国民による政治の仕組みを判断する設問では、市の平均を4.6ポイント上回るものの、正答率は54.6%と約5割であった。 | ・国会、裁判所、内閣の役割や特徴、そして関係性について整理し、関係図などを活用してより理解が深まるように今後も指導を進めていく。 |
| 日本の歴史 | ○この領域の正答率は、市の平均を9.2ポイント上回っている。 ○大和朝廷についての理解を問う設問においては、市の平均64.7%を大きく上回り、84.6%の正答率となった。 | ・各時代の基礎的知識を復習するだけでなく、歴史的事象に対して考えたことを自分の言葉で記述するような時間をさらに増やしていくことで知識を活用し、表現する力も伸ばしていきたい。 |

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 数と計算 | 72.2 | 71.8 | 76.2 |
| | 図形 | 72.8 | 67.7 | 67.8 |
| | 変化と関係 | 67.4 | 63.4 | 62.7 |
| | データの活用 | 74.6 | 66.7 | 61.5 |
| 観点別 | 知識・技能 | 71.9 | 68.6 | 70.7 |
| | 思考・判断・表現 | 73.5 | 68.5 | 66.0 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

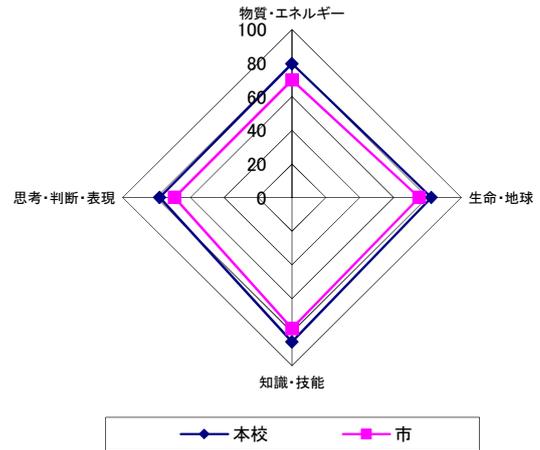
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------|---|---|
| 数と計算 | ○この領域の正答率は、市の平均と同程度である。 ●小数、分数の計算や文章問題では、市の平均を5ポイント以上上回っているものもあれば、5ポイント下回っているものもあり、十分に理解しているとは言えない。 | ・計算の意味ややり方への理解が深まるような指導と、知識や技能を身に付けるための反復練習などに力を入れている。 |
| 図形 | ○この領域の正答率は、市の平均を5.1ポイント上回っており、よく理解できている。 ○線対称な図形の対象の軸を求める問題の正答率は70.8%と市の平均を15.9ポイント上回り、特によく理解できているといえる。 ●組み合わせた図形の面積を求める問題では、市の平均を上回っているものの、正答率が50%を下回っている。 | ・図形領域の学習においては、作図や操作などの活動を多く取り入れ、図形をイメージできるようにしていくなど、理解を深めることができるような指導を続けていく。 |
| 変化と関係 | ○この領域の正答率は、市の平均を4.9ポイント上回っている。 ○どの問題においても市の平均を上回っており、ほぼ理解しているといえる。 ●基準量と比較量から割合を求める問題では、市の平均を3.3ポイント上回ってはいるが、全国の平均と比べると1.1ポイント下回っており、十分に理解しているとは言えない。 | ・「単位量あたりの大きさ」と「速さ」の問題は、引き続き数直線や図などを用いて考え、自分で説明する活動を増やしながらか定着を図っていく。その際、問題の中から「くらべられる量」と「もとにする量」、「道のり」「速さ」「時間」を正確に捉えられるよう指導を行う。 ・「割合」の問題は、基準量と比較量、割合の関係性から復習し、基礎をしっかりと身につかせていく。 |
| データの活用 | ○この領域の正答率は74%と、市の平均を7.9ポイント上回っている。 ○ほとんどの問題が市の平均を5ポイント以上上回っており、ほぼ理解しているといえる。 ●帯グラフを読み取って説明する問題では市の平均を14.7ポイントと大きく上回ってはいるものの、正答率が50%を切っており、課題がある。 | ・グラフやデータから正しいものを選ぶことや、必要な情報を読み取ることはできているが、それをどのように活用していくか、またそれらは何の根拠になるのかなどを説明できるように指導していく。 |
| | | |
| | | |

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 物質・エネルギー | 79.6 | 69.9 | 67.8 |
| | 生命・地球 | 82.3 | 75.1 | 73.7 |
| 観点別 | 知識・技能 | 85.7 | 77.8 | 78.4 |
| | 思考・判断・表現 | 78.1 | 69.4 | 66.2 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------|---|---|
| 物質・エネルギー | <p>○この領域の平均正答率は、市の平均を9.7ポイント上回っている。</p> <p>○「電流のはたらき」の、電流の強さと電磁石のはたらきの関係を調べる実験の問題は、市の正答率を20.1ポイント上回っている。</p> <p>○「物のとけ方」の、食塩を全て溶かす方法の問題は、市の正答率を15.8ポイント上回っている。</p> | <p>・学習内容が、生活の場面で生かされたり当てはまったりすることを学習の中に盛り込みながら授業を行ってきたことで、自分たちにより身近な問題として捉え、理解が深まったと考えられる。今後も実体験とつながるような授業を工夫していく。</p> <p>・どの問題も市の正答率を上回っているため、今後もさらに授業を工夫していく。</p> |
| 生命・地球 | <p>○この領域の平均正答率は、市の平均を7.2ポイント上回っている。</p> <p>○「植物の発芽と成長」の、目的に合った対照実験を計画する問題は、市の正答率を10.2ポイント上回っている。</p> <p>○「動物のからだのつくりとはたらき」の、呼吸の働きを記述する問題は、市の正答率を14.6ポイント上回っている。</p> | <p>・課題解決のための方策を考える話し合いを続けてきたことで、目的や条件を考える力が高まったと考えられる。今後も主体的に課題に取り組もうとする意欲を喚起させる授業を工夫していく。</p> <p>・キーワードをもとに自分の言葉で表現させることで、実験結果のまとめや考察を記述する力が高まったと考えられる。今後も自分の考えを表現できるよう指導を続けていく。</p> |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

宇都宮市立豊郷中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|---|--|--|
| 1話す・書く力の向上 2言語事項に関する力の向上 3数量や図形の基礎的な事項の定着 | 1ノート指導と合わせて、根拠をもとに、端的に、順序良く、わかりやすく話す・書く指導 2漢字は文章の中で使えるよう書く指導と合わせて行う。 3繰り返し学習や家庭学習の工夫を行う。 | ・漢字学習、数量や図形の基礎的な事項については、当該学年の漢字にやや定着不足が見られたものの、ほぼ良好な結果であった。また、話す・書くことについても改善が見られた。特に「書く」ことの、条件に合った書き方で書くことに改善が見られた。しかし、国語の書く設問や算数や理科の記述で解答する設問の中には、正答率の低いものがあった。今後は、書くことに重点を置いて指導していく。 |

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・「話す・書く」力を更に高めるために、国語以外の教科でも、自分の考えを文章にする活動を意図的に設け積み重ねていく。考えたことを分かりやすく表現し伝えることができるようにするため、根拠や理由を明らかにして話したり書いたりすること、順序だてて端的に話したり書いたりすることについて、教科や教科以外の活動の中でも指導していく。また、字数や段落など条件に合った書き方ができるよう、学年の発達段階に合わせて指導していく。